

進路決定率 第3弾【地区別】

「27年進路決定率」

北陸・東海地区がTOP

大都市圏で低調！

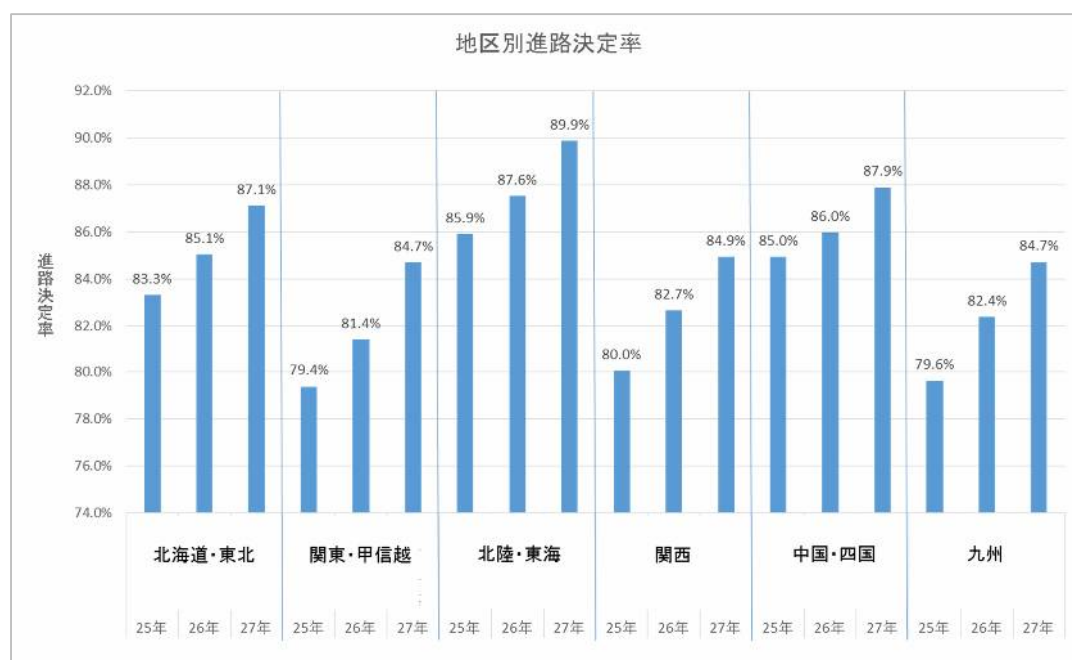
旺文社 教育情報センター 28年2月

大学の卒業生における大学院進学者と就職者の割合、「進路決定率」。

この数値について、旺文社刊行『大学の真の実力 情報公開 BOOK』（毎年9月末発行）のデータを基に25年からの経年で、第1弾では「[全体／男女別／学部系統別](#)」、第2弾では「[国立・公立・私立大別](#)」という観点から見てきた。今回はそれを「地区別」に見ていこう。

「進路決定率」についての説明は、第1弾記事をご参照いただきたい。

●進路決定率(25～27年)は全地区で上昇。もっとも高いのは北陸・東海地区



*25年進路決定率は同年3月までの卒業生（24年度卒業生）のデータを元に算出。他の年も同様。

【有効回答数】 25年：699大学2196学部、26年：710大学2256学部、27年：712大学2258学部

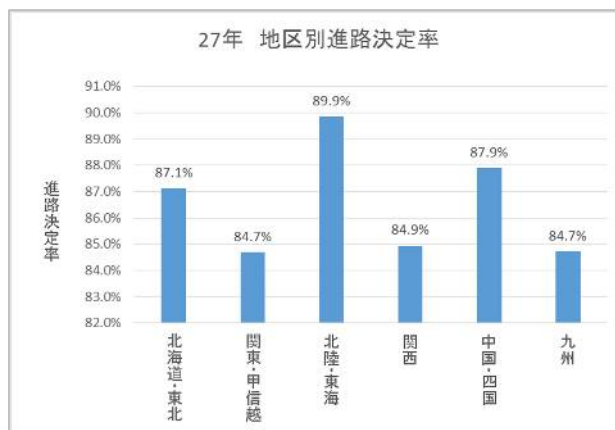
上のグラフは25年から27年の進路決定率を、地区別に表したものの。

25年から27年まで、進路決定率は全地区で上昇していることがわかる。さらに、いずれの年も北陸・東海地区がもっとも高く、そのあとに、中国・四国、北海道・東北、関西、九州、関東・甲信越と続いている。

また、25年から27年の2年間で進路決定率がもっとも伸びたのは、関東・甲信越地区で、+5.3ポイント。以下、九州（+5.1ポイント）、関西（+4.9ポイント）、北陸・東海（+4.0ポイント）、北海道・東北（+3.8ポイント）、中国・四国（+2.9ポイント）と続く。

●北陸・東海地区の進路決定率はダントツの89.9%

次に各地区について詳しく見ていこう。下のグラフは前ページのグラフから、27年の進路決定率のみを取り出したものだ。



グラフを見ると、北陸・東海地区の進路決定率が他の地区に比べて頭ひとつとび抜けているのがよくわかる。ここで下の表を見てほしい。

地区別 国公立大別 進路決定率（27年）

地区	国立大	公立大	私立大	全体
北海道・東北	90.7%	93.8%	83.5%	87.1%
関東・甲信越	90.5%	90.5%	83.8%	84.7%
北陸・東海	92.7%	91.1%	88.8%	89.9%
関西	92.0%	91.4%	83.5%	84.9%
中国・四国	90.9%	90.8%	84.7%	87.9%
九州	88.6%	85.7%	82.4%	84.7%

この表は地区別の進路決定率を、さらに国立・公立・私立大別に見たものだ。北陸・東海地区は国立大、私立大ともに進路決定率が高く、とくに私立大では群を抜いている。自動車産業を中心に、東海地区に拠点を置く企業の業績がよいことも、進路決定率を押し上げる要因になっているといえよう。

なお、各地区とも進路決定率は国公立大の方が私立大よりも高い。これは、国公立大の卒業生総数に占める大学院進学者の割合が、私立大に比べ高いことが主な要因。ちなみに、大学院進学者の割合（27年）は、国立大 33.4%、公立大 13.5%に対し、私立大は 5.8%である。

詳細は、本シリーズ第2弾「国立・公立・私立大別」を参照してほしい。

●大都市圏を含む関東・甲信越、関西地区の進路決定率が低い理由

引き続き、前ページの表をもとに各地区の状況を見ていこう。

北海道・東北地区は、卒業者の半数近く（47%）を国公立大が占めており、国公立大の数値が全体の進路決定率を押し上げている。この地区の私立大を北海道と東北地区に分けて集計すると、進路決定率は北海道 80.7%に対し、東北は 85.7%と、対照的な結果となっている。

関東・甲信越地区は、私立大卒業者が全体の9割近く（87%）を占めており、全体の進路決定率は私立大の数値の影響を強く受ける。私立大は大学院進学者の割合が低いこともあり、進路決定率は国公立大に比べ低い。

そのため、関東・甲信越地区の全体の進路決定率は、他地区に比べ低く出る傾向にある。しかし、それにしても就職先の豊富な大都市圏のイメージの割には、私立大の進路決定率は低い。東京都の私立大の進路決定率は 84.2%、東京都を除く首都圏（埼玉県、千葉県、神奈川県）の私立大は 81.7%となっている。

北陸・東海地区の状況は前述のとおり。しかし国公立大が多いわけではなく、卒業者は全体の3割程度（29%）。また、私立大の中でも愛知県が引き上げているわけでもなく、愛知県の私立大の進路決定率は 88.9%で、本地区の平均とほぼ同じ。目立つのは 91.9%という、北陸3県の私立大の進路決定率の高さだ。

関西地区は関東・甲信越地区と傾向が似ている。私立大卒業者の占有率が8割以上（82%）と高く、私立大の影響を強く受ける。さらに大都市圏ではあるが、私立大の進路決定率が低い。京都府の私立大の進路決定率は 83.9%、大阪府は 82.7%である。

中国・四国地区は、卒業者の半数以上（52%）を国公立大が占めており、国公立大の数値の影響を強く受けている。

私立大の進路決定率は比較的高く、国公立大全体の進路決定率は北陸・東海に次ぐ数値となっている。

九州地区は国公立大卒業者の占有率が4割以上（42%）と比較的高めだが、それでも国公立大ともに進路決定率は低い。国立大は唯一9割を切った地区で、私立大も福岡県でさえ 84.1%と決して高くはない。



次ページに都道府県別のグラフを掲載した。あくまで県内大学の全体集計であって、個々の大学では、高い大学も低い大学もあることに注意されたい。

都道府県別 進路決定率(27年)

